

鉢物用マーガレット新品種‘スイートリップル’ 及び‘サンデーリップル’の育成[†]

稲葉善太郎

農林技術研究所伊豆農業研究センター

Breeding of a New *Argyranthemum* Cultivar ‘Sunday Ripple’ and ‘Sweet Ripple’ for Pot Plants

Zentaro Inaba

Izu Agricultural Research Center/ Shizuoka Res. Inst. of Agri. and Forest.

Abstract

I successfully produced the new *Argyranthemum* cultivars ‘Sunday Ripple’ and ‘Sweet Ripple’ for pot plants and they were successfully registered with the Plant Variety Registration System in Japan. Both cultivars were selected from the seedlings of the preserved line (Line name: N-4) which was sowed in 1999. The cultivar ‘Sweet Ripple’ is characterized by small, double flower heads with white ray florets. ‘Sweet Ripple’ has a low plant height and produced a high quality potted flower. The flowering time of ‘Sweet Ripple’ was earlier than ‘Shirobana Yae’ and ‘White Moon’ which has a similar flower head. The cultivar ‘Sunday Ripple’ is characterized by small, single flower heads with white ray florets. ‘Sunday Ripple’ has a spreading plant habit which was suitable for pot flowers. Growers can cultivate both cultivars in the same cropping type.

キーワード：鉢物, 品種, マーガレット

I 緒 言

マーガレットは、スペイン領カナリア諸島¹⁾とポルトガル領マデイラ諸島²⁾を原産とし、23種³⁾または24種⁴⁾があるとされ、原種の多くは一重咲きの白花である¹⁰⁾。

マーガレットは、1669年に原産地からヨーロッパに導入され、ビクトリア王朝時代には庭園の植物として広まった¹¹⁾。1990年の大阪花博を期に日本ではマーガレットの植栽利用が広まったとされている。その後起こったガーデニングブームでは、イングリッシュガーデンの花壇材料³⁾として利用されるとともに、海外から多くの鉢

物・花壇用品種が紹介・導入され^{3,11,12)}、品種登録も行われてきた⁹⁾。

農林技術研究所伊豆農業研究センターでは、前身である静岡県有用植物園時代の1960年代よりマーガレットの品種育成・導入を行ってきた⁴⁾が、これは南伊豆地域でマーガレットの切り花生産が盛んであったため切り花用品種の改良を目的としたものであった⁵⁾。

その後、新品種育成の過程で選ばれる個体の中に、わい性で鉢物向けとしての利用が可能なものがあることに着目した静岡県東部地域の鉢物生産者の要望を受けて、白花・一重咲きの鉢物用品種‘ホワイトリップル’を育

[†] 本報告の一部は平成14年度園芸学会秋季大会において発表した(2002年10月, 熊本市)

成するとともに、施肥方法、栽培用土及び夜温管理方法について明らかにしてきた⁸⁾。本報では、わい性で白花・八重咲きの‘スイートリップル’、わい性で白花・一重咲きの‘サンデーリップル’を育成したので、その育成経過と特性について報告する。

II 材料及び方法

1 選抜経過

一次選抜：1999年6～7月に静岡県農業試験場南伊豆分場（現伊豆農業研究センター南伊豆圃場，以下南伊豆圃場，賀茂郡南伊豆町）のガラス温室において、保存系統（系統名N-4；淡桃花，一重咲き）の自然交雑した頭状花23個を採種した。11月8日に播種し、定植まで育苗用ガラス温室内で発芽させ、発芽した20個体を、2000年2月29日にガラス温室内に定植した。草姿、開花期等を中心に選抜を行った。

二次選抜：一次選抜した5系統を供試し、南伊豆圃場内のガラス温室で行った。対照品種として‘在来白’，および‘伊豆マグ85’を用いた。供試品種は、2000年6月28日に挿し芽，7月14日に定植し，8月3日に摘心した。草姿、年内採花本数、切り花品質および鉢物としての特性を調査した。試験規模は1区4株とした。

三次選抜：二次選抜した3系統を供試し、南伊豆圃場内のガラス温室で行った。対照品種として‘在来白’，‘伊豆マグ85’および‘ホワイトリップル’を用いた。2001年6月14日に挿し芽，6月25日に定植し，7月27日に摘心した。草姿、花型、年内採花本数、切り花品質および鉢物としての特性を調査した。試験規模は1区4株とした。

2 特性調査

2001年9～12月に、品種登録に向けた特性調査を行った。平成元年度種苗特性分類調査報告書（マーガレット）⁸⁾に従い、各品種4株について調査した。特性調査時

の対照品種として、‘スイートリップル’では‘白花八重’および‘ホワイトムーン’，‘サンデーリップル’では‘ホワイトリップル’および‘白花サンビーム’を供試した。

3 現地適応性

育成系統‘99-16-1’および‘99-16-3’を2001年6月1日に挿し芽し，6月22日に鉢上げした。鉢上げ後，下田市，沼津市，伊豆の国市および富士市の計4か所の鉢物生産者に引き渡した。引き渡し後，摘心等の栽培管理は各生産者の慣行によった。草姿，草丈，開花時期等を観察調査した。対照品種として‘ホワイトリップル’を供試した。

III 結果

1 ‘スイートリップル’の育成経過

‘スイートリップル’の育成経過を図1に示した。

一次選抜：1999年6～7月に39交配組合せ（自然交雑実生を含む）で交配を実施して種子を獲得した。これらのうち保存系統（系統名N-4；淡桃花，一重咲き）の自然交雑した頭状花23個分の種子を播種した。発芽した20個体を2000年2月20日にガラス温室内に定植した。この中から，草丈が低く，枝の広がりやすい草姿の5個体を選抜し，‘99-16-1’から‘99-16-5’の系統名を付与した。

二次選抜：2000年度に二次選抜を実施した。その結果，年内から開花する八重咲きの白花で，草丈が低く，株元から広がりやすい鉢物向けの草姿の‘99-16-1’を選抜した。

三次選抜：2001年度に三次選抜と現地適応性を調査した。その結果，‘99-16-1’は前年度と同様の特性が確認されたため，育成系統候補‘伊豆7号’として，2002年7月に育成を完了した。

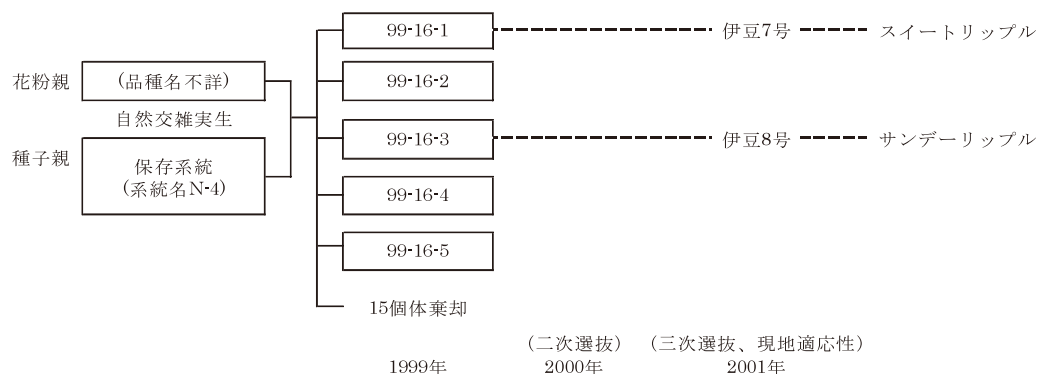


図1 ‘スイートリップル’ および ‘サンデーリップル’ の育成系統図

表1 ‘スイートリップル（伊豆7号）’の生育開花特性（2001年度）¹⁾

品種名	葉の形質							花 色				選抜 ⁴⁾
	草型	草丈	葉片幅	葉の欠刻	葉身長	葉身幅	葉色 ²⁾	開花開始	花径	舌状花	管状花	
伊豆7号（99-16-1）	広	中	狭	深	短	中	緑	11月下	小	白	八重	B
白花八重 ⁵⁾	中	中	狭	深	中	中	淡緑	1月中	中	白	八重	—
ホワイトムーン ⁵⁾	中	中	狭	深	中	中	淡緑	1月中	中	白	八重	—

- 1) 生育特性は種苗分類調査報告書（マーガレット）による栽培期間中の観察調査
- 2) 葉色は‘在来白’（緑）を基準とした場合の濃淡等による観察調査
- 3) 採花時点で出荷基準を満たしていると考えられるものの本数
- 4) 選抜基準，B；鉢物向けとして選抜
- 5) 対照品種

表2 ‘スイートリップル（伊豆7号）’の現地適応性試験の概要と評価¹⁾

品種名	花色	花型	花径	草丈	開花開始	現地生産者 ²⁾ の観察状況	評価 ³⁾
伊豆7号 （99-16-1）	白	八重	小	中	11月中	草姿良い（Z、Y） 花型に特徴がある（X）	○
ホワイトリップル	白	一重	中	長	10月上	対照品種	—

- 1) 生育特性は種苗分類調査報告書（マーガレット）による栽培期間中の観察調査
- 2) 葉色は‘在来白’（緑）を基準とした場合の濃淡等による観察調査
- 3) 採花時点で出荷基準を満たしていると考えられるもの本数



写真1 ‘スイートリップル（伊豆7号）’の草姿

生育特性：‘伊豆7号’は八重咲きの白花で、慣行の6月定植作型における開花期は12月上旬と‘白花八重’及び‘ホワイトムーン’よりも早い。草丈が低く、株が広がりやすいので、鉢物栽培に適する。

現地適応性：‘伊豆7号’は、小輪タイプの八重咲きの白花で、開花開始は11月中旬以降で、開花時の草姿のバランスが良く、4号鉢でコンパクトに仕上がることが、生産者の評価を得た（表2）。市場担当者から草姿のバランスが良いことを評価された（写真1）。

品種登録：‘伊豆7号’は、鉢物向け有望系統として2002年7月に育成を完了した。本系統は、品種名を‘スイートリップル’に決定し、2002年8月28日に品種登録を出願し、2003年2月20日付けで出願公表（第14982号）、2005年2月27日付けで品種登録された¹⁰⁾。

表3 ‘サンデーリップル (伊豆8号)’ の生育開花特性 (2001年)¹⁾

品種名	葉の形質							花 色				選抜 ⁴⁾
	草型	草丈	葉片幅	葉の欠刻	葉身長	葉身幅	葉色 ²⁾	開花開始	花径	舌状花	管状花	
伊豆8号 (99-16-3)	広	中	狭	深	短	狭	淡緑	9月中	小	白	黄	B
ホワイトリップル ⁵⁾	狭	中	極狭	深	短	狭	灰緑	10月上	小	白	黄	—
白花サンビーム ⁵⁾	中	中	狭	中	中	中	緑	1月中	小	白	黄	—

- 1) 生育特性は種苗分類調査報告書 (マーガレット) による栽培期間中の観察調査
 2) 葉色は‘在来白’ (緑) を基準とした場合の濃淡等による観察調査
 3) 採花時点で出荷基準を満たしていると考えられるものの本数
 4) 選抜基準, B; 鉢物向けとして選抜
 5) 対照品種

表4 ‘サンデーリップル (伊豆8号)’ の現地適応性試験の概要と評価¹⁾

品種名	花色	花型	花径	草丈	開花開始	現地生産者 ²⁾ の観察状況	評価 ³⁾
伊豆8号 (99-16-3)	白	一重	小	中	9月下	鉢栽培で矮化しやすい (Z、Y、X、W) 生育が良い (Z、W)、花首伸びやすい (W) ハンギング等にも使えるのではないかと (X)	○
ホワイトリップル	白	一重	中	長	10月上	対照品種	—

- 1) 生育特性は種苗分類調査報告書 (マーガレット) による栽培期間中の観察調査
 2) 葉色は‘在来白’ (緑) を基準とした場合の濃淡等による観察調査
 3) 採花時点で出荷基準を満たしていると考えられるものの本数



写真2 ‘サンデーリップル (伊豆8号)’ の草姿

2 ‘サンデーリップル’ の育成経過

‘サンデーリップル’ の育成経過を図1に示した。

‘サンデーリップル’ の種子親は‘スイートリップル’ と同一であり、一次選抜については同時に行った。

二次選抜：2000年度に二次選抜を実施した。その結果、年内から開花する一重咲きの白花で、草丈が低く、株元から広がりやすい鉢物向けの草姿の‘99-16-3’を選抜した。

三次選抜：2001年度に三次選抜と現地適応性を調査した。その結果、‘99-16-3’は前年度と同様の特性が確認されたため、育成系統候補‘伊豆8号’として、2002年7月に育成を完了した。

生育特性：‘伊豆8号’は小輪タイプの一重咲きの白花で、慣行の6月定植作型における開花期は9月中旬と、‘ホワイトリップル’及び‘白花サンビーム’よりも早い。草丈が低く、株が広がりやすいので、鉢物栽培に適する (写真2)。

現地適応性：‘伊豆8号’は、小輪タイプの一重咲きの白花で、開花開始が9月下旬と早く、4号鉢栽培で矮化しやすい。花首は長い、その特徴的な草姿から、ハンギング等での利用の可能性も期待されている。

品種登録：‘伊豆8号’は、鉢物向け有望系統として2002年7月に育成を完了した。本系統は、品種名を‘サンデーリップル’に決定し、2002年8月28日に品種登録を出願し、2003年2月20日付けで出願公表（第14983号）、2005年2月27日付けで品種登録された¹⁰⁾。

IV 考 察

‘スイートリップル’及び‘サンデーリップル’の種子親である保存系統（系統名N-4）は、コンパクトな淡桃花の一重咲きであり、鉢物向けの草姿を確保する目的で種子親として利用した。

一次選抜では、1999年11月に播種しており、現地で重要となる夏越し後の開花時期が不明であるため、花型と草姿のみで観察評価し、‘99-16-1’～‘99-16-5’の5系統を選抜して2000年度に二次選抜を行った。この時点での観察では、育成系統‘99-16-1’と‘99-16-3’が草丈が低く鉢物向けのコンパクトな草姿であった。二次選抜時の両系統の開花時期は‘99-16-1’が12月上旬、‘99-16-1’が9月下旬と、年内から開花したことから年内出荷も可能と考えられたため、三次選抜と平行して現地適応性を検討することとした。

場内における‘スイートリップル（99-16-1）’の開花開始時期は、二次選抜（2000年）では12月上旬、三次選抜（2001年）では11月下旬と、対照品種の‘ホワイトリップル’より遅く、‘在来白’と比較して2000年度は同時期で2001年度は遅かった。なお、2000年と2001年では定植は同時期であるが、摘心が8月3日、7月27日と約1週間の差があり、このことが、開花時期の違いに影響していると推察された。

品種登録のための特性調査においては、‘スイートリップル’は花型が類似する‘白花八重’及び‘ホワイトムーン’の2品種より開花時期が早く、年内からの出荷が見込めることが明らかとなった。

2001年度の現地適応性試験では、草姿や八重咲きの花型が高く評価された。一般に、鉢物用マーガレットの多くが2～3月に出荷されていることから、12月以降に出荷できる八重咲き・白花品種が加わることで、販売時期や市場性の拡大が期待出来ると考えられた。

場内における‘サンデーリップル（99-16-3）’の開花開始時期は、二次選抜（2000年）では9月下旬、三次選抜（2001年）では9月中旬と、対照品種の‘ホワイトリ

ップル’や‘在来白’より早かった。なお、2000年と2001年では定植は同時期であるが、摘心が8月3日、7月27日と約1週間の差があり、このことが、二次、三次選抜における開花時期の違いに影響していると推察された。

品種登録のための特性調査においては、‘サンデーリップル’は花型が類似する‘ホワイトリップル’及び‘白花サンビーム’の2品種より開花時期が早く、9月以降の早期出荷が見込める可能性が見出された。また、花首が長く、株が広がりやすい草姿から鉢物や花壇苗などでの利用が可能と考えられた。

2001年度の現地適応性試験では、9月下旬から開花が確認された。わい性の草姿で、生育が良いことが高く評価された。また、花首が伸びやすく、広がりやすい草姿から吊り鉢等での利用の可能性も指摘された。一般に、鉢物用マーガレットの多くが2月～3月の出荷とされていることから、9月から早期出荷が出来ることは、産地として大きなメリットとなると考えられた。また、吊り鉢等での新しい利用法などの提案もあり、鉢物・花壇苗等での利用における高い可能性が見出された。

なお、海外で育成されたマーガレット品種を栽培する他県の鉢物産地では、年内出荷のための花芽分化促進を目的として、夏季の高温を避けて栃木県日光等での山上げ栽培の事例もある。静岡県内の鉢物生産者も、洋ランなどを山梨県富士五湖周辺に山上げしている事例がある。今後、‘スイートリップル’と‘サンデーリップル’の安定した早期出荷を目的として夏季の山上げ栽培を検討する余地があると考えられた。

以上の結果から、‘スイートリップル’と‘サンデーリップル’は年内から出荷可能な鉢物用品種として、同一の作型での栽培が可能であり、花壇苗等の新しい需要を創出する効果があると考えられた。両品種の導入により安定した年内出荷が可能になり、他県のマーガレット産地との差別化が図られることが期待される。

V 摘 要

鉢物用新品種、‘スイートリップル’と‘サンデーリップル’を育成し、品種登録した。両品種は、1999年に保存系統（系統名N-4）の種子を播種して得た実生個体から選抜した。‘スイートリップル’は、小輪タイプの八重咲きの白花で、草丈が低く、鉢物向けの草姿で、開花は年内から開始し‘白花八重’及び‘ホワイトムーン’よりも早い。‘サンデーリップル’は、小輪タイプの一重咲きの白花で、鉢物向けの草姿で株が広がりやす

く、開花が9月から開始し‘ホワイトトリプル’及び‘白花サンビーム’よりも早かった。両品種は、同一作型での栽培が可能である。

謝 辞

本試験の実施にあたり、伊豆（現賀茂）農林事務所、東部農林事務所、富士農林事務所及び静岡県東部花き流通センター農協の担当者及び生産者諸氏のご協力を受けた。ここに記して感謝申し上げます。

引用文献

- 1) Bramwell, D. and Bramwell, Z. (2001): Wild Flowers of the Canary Islands (2nd ed.). p.337~346. Editorial Rueda, Madrid.
- 2) Bremer, K. and Anderberg, A. A. (1994): Asteraceae: Cladistics & Classification. p.435~478. Timber Press, Oregon.
- 3) Cheek, R. (1993): La Belle Marguerite. The Garden vol.118. part 8: 350~355.
- 4) 古里和夫. (1977): マーガレット. 新花き 95: 32~35.
- 5) 稲葉善太郎. (2004): マーガレット. p.19~23. 伊豆花卉連 50周年のあゆみ. 伊豆花卉園芸組合連合会編集委員会. 静岡.
- 6) 稲葉善太郎. (2005): マーガレット新品種‘ホワイトトリプル’の育成と栽培法. 静岡農試研報 50: 29~38.
- 7) 北村四郎・畑井昭一郎・藤田政良. (1988): キク属 (広義). p.24~30. 園芸植物大辞典. 小学館. 東京.
- 8) マーガレット種苗特性分類調査委員会. (1990): 平成元年度種苗特性分類調査報告書. 種類名: マーガレット. 農林水産技術協会. 東京.
- 9) 農水省生産局知的財産課. (2010): 品種登録. <<http://www.hinsyu.maff.go.jp/>>
- 10) Press, J. R. and Short, M. J. (1994): Flora of Madeira. p.1~7. 354~356. 514. Intercept Limited, Hampshire.
- 11) Sutton, J. (2001): The Plantfinder's Guide to Daisies. p.83~91. David & Charles Publishers, Devon.
- 12) 横井政人 (監訳): (2003). ARGYRANTHEMUM. p.134~135. A-Z 園芸植物百科事典. 誠文堂新光社. 東京.